

7月24日(日)~7月30日(土)

関 伸彦さん（新潟総合生協労組）

山下 和宏さん (アシスト労組)

7月24日



《ボランティア派遣者による団結ガンバロー》

全労金の連合ボランティアについては、第12次（7月23日帰着）までの派遣が終了しました。第8次～12次までお世話になった「住田BC」は、今後、地元ボランティアに引き継がれますので、全労金は第13次（7月31日発）から、新たに「美里BC（宮城県）」で活動を行います。

したがって、今週の全労金は中休みになりますが、本日から、労済労連の照沼書記長をはじめとする3名の仲間が、私たちが来週から派遣される「美里BC」に出向き、活動されることがわかりました。

そこで、これまで全労金の仲間と繋いできたバトンを、労済労連の仲間を引き継ぎたいと考え、現地の活動とＢＣの拠点情報等を全労金ブログで更新したいとお願いし、照沼書記長に快く引き受けて頂きました。

派遣される方は以下の3名です。

照沼 光二さん 労済労連書記長（全労済労組）

関 伸彦さん 労済労連中央執行委員（新潟総合生協労組）

山下 和宏さん 労済労連中央執行委員（アシスト労働組合）※山下さんは、現地で合流されるそうです。

全労金の仲間の皆さん、明日から現地で奮闘される労済労連の仲間にも、是非、激励と連帯のメッセージを送って下さい。よろしくお願いします。

報告者：河野

《労済労連第16陣派遣、出発！》 7月24日

全労金の皆さん、こんにちは。労済労連の照沼と申します。

冒頭、震災で犠牲になられた関係の皆様に関心から哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、震災発生以降、全労済グループでは住宅被害の現場調査のための全国動員が組まれており、そういう中で連合救援ボランティアについては中執メンバー中心とせざるを得ず、今回の派遣が5回目となります。自分と中執の関伸彦（新潟県総合生協労組）と全労済アシスト労組委員長の山下和宏の3名が参加しています。今朝の出発式には河野書記長と末留書記次長に見送りに来ていただき、大変感激しました。

個人的には連合救援ボランティアは2回目で、現場調査とあわせれば3月以降毎月東北に足を運んでいることになります。どんな形でも、どんな立場でもいいので、少しでも復興・再生に役立てればと思います。

今回の活動拠点は美里BCで、全労金も次回からその担当になると聞きました。そういう意味で、参加される予定の方々にとって有益な情報をお届けできればと思っています。バスは順調に東北道を宮城にむかってひた走っています。



《美里BC到着》 7月24日



17時20分に美里BCに到着しました。全労済アシスト労組の山下委員長も無事に合流しました。到着後すぐに結団式が行われ、さらに間髪入れずにお風呂（バスで15分のところにある温泉）に移動となりました。

《活動スタート》 7月25日



夜中に大きな地震がありました。事前に情報を仕入れていない自分が悪いのですが、美里が海岸からどのぐらいの距離なのかわからず、テレビもない中でかなり不安な時間を過ごしました。東北の方々は今もお余震におびえながら生活されているのだらうと、あらためて実感しました。今日は7時に起床し、出発式と記念撮影の後、バスで約1時間をかけて石巻に移動しました。活動内容は集合住宅内のがれき撤去です。気温もそれほど上がらず、活動しやすいです。

《活動2日目》 7月26日

今日は東松島の海岸から数kmのところにある側溝のヘドロのかき出しです。



《現地情報》 7月26日



任務が完了し、天気も崩れてきそうなので、早めに撤収になりました。なお、今さらながら現地情報を幾つかお伝えします。まず美里BCのルールとして、お風呂は作業後そのままバスで「加護坊温泉さくらの湯」というところにむかいます。したがって、朝出発する時に着替えとタオルを忘れずに持参する必要があります。また、美里BCはJR小牛田（こごた）駅から数百メートルと駅近ですが、近辺で食事ができるお店はあまりありません。徒歩5分程度のところにヨークベニマルがあり、周辺にラーメン屋とそば屋があるのと、駅前に居酒屋が2軒ある程度です。コンビニは一度も見かけていないので、タバコを吸う人はあらかじめ購入されておいた方がいいと思います。仙台と比べてしまうとかなり寂しい感じもしますが、お店の方もすれ違う方も皆さん優しく、とても温かい街です。

《今日は中日》 7月27日



今日は中日ということで、作業は午前中だけでした。内容は東松島市役所鳴瀬庁舎近くの側溝の泥のかき出しでした。まだ3日目ですが、これまでで一番暑かったです。きれいにしたらどぶ板でふさぎ、目印として石灰をまいて終わりです。町内会の方が差し入れしてくださった麦茶がとてもおいしかったです。なお、昨晚は小牛田から3駅目の古川という町に行きました。東北労働金庫の古川支店がありました。

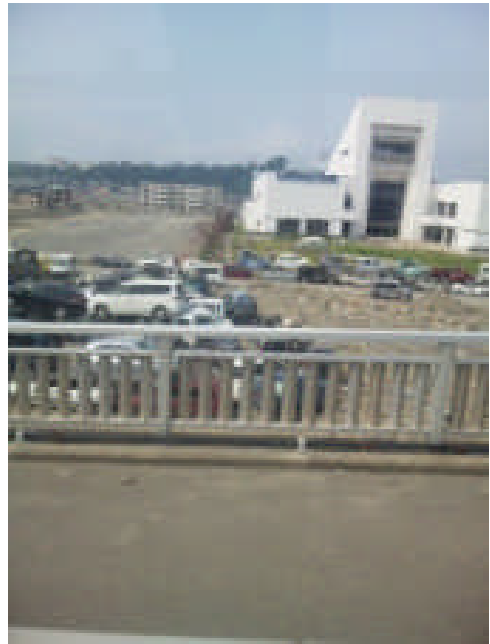


《はじめまして関です(写真左側)》 7月27日

全労金の皆様、はじめまして。ごあいさつ遅くなり申し訳ありません。労済労連で中央執行委員をしています新潟総合生協労組の関です。今回は全労金の皆様からこのような機会を与えていただいたことを大変嬉しく思っております。また、日々様々な方から応援のコメントをいただき大変ありがとうございます。私は出身も新潟でありますので、中越地震、中越沖地震を経験しました。その際にも全国の仲間の皆様からたくさんの温かい励ましの言葉や支援をいただきました。今回の東日本大震災では、少しでもその恩返しができればと思っています。さて、私が参加している今回のボランティア活動も残すところあと2日になりました。次のクールに参加される全労金の皆様に想いをつなぐまで頑張りたいと思います。そうした想いをつなぐことができるのも両組織の絆の強さだと今回の活動を通じて改めて実感したところです。今後ともよろしくお願いします。



《4日目スタート!》 7月28日



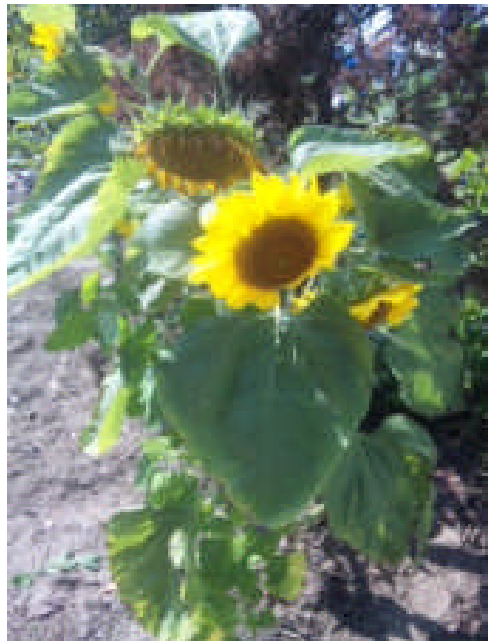
全労金のみなさん、こんにちは。全労済アシスト労組の山下と申します。今回のボランティアも残すところ今日を含めて2日となりました。このタイミングでの初投稿になりますがご勘弁下さい（照沼書記長と同じで恥ずかしがり屋さんなので…）。さて、今、今日の作業場に向かっていきます。昨日と同じ地域で側溝の汚泥掻き出しとのことです（現地での作業内容の変更もありそうです…）。みなさんのあたたかいメッセージを拝読しながら、今日までメンバー一同元気にやっています（毎日夕飯にニンニクを食べてるので必要以上にチカラがみなぎっています）。昨日の作業終了後の帰路中に石巻市海岸部に立ち寄りしました。ショックでした。目の前の光景から目を背けたくなりました。人も物も生活も…何もありませんでした。目立っていたのは何十メートルもあるかという、恐ろしく高く積み上げられたゴミや瓦礫の山だけでした。移動バスの中では、あの光景を前に誰一人としてことばを発することができませんでした…。わたしたち一人ひとりがおこなっているボランティア作業がどれだけ現地に貢献できているのかわかりません。でも、ボランティア作業そのものが役割ではなく、見聞きしたことを伝えることが大切な役割なんだと、その責任の重さを感じているところです。もっともっと助け合いの気持ちが必要だと思います。本当に一日でも早く被災地の方々が安心して生活できるようにしてあげたいと心からそう思います。



《希望の花》 7月28日



本日から全労金第60回定期大会が盛会に開催されていることと存じます。労済労連からは渡辺委員長が出席させていただき、ご挨拶させていただきました。なお、今定期大会をもって中須副委員長と末留書記次長が退任されると聞いています。中須副委員長とは5年間、末留書記次長とは3年間、一緒に活動させていただきました。恐縮ですが、本ブログをお借りして厚く御礼申し上げます。また、非専従になられる深見書記次長や他の退任される方々も含めて、皆様の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。さて、本日の作業内容は予定が変更となり、津波被害に遭った民家の室内からの泥出しと庭の片付けでした。家主の方に大変喜んでいただきました。庭に咲いていたひまわりも心なしかうれしそうでした。



《最終日》 7月29日



最終日を迎えました。ここでまた現地情報を幾つかお伝えします。一日の流れは写真のとおりです。バス乗り場はBC前を流れる川を渡った公園の入り口で、歩いてすぐのところです。トイレは大が3つ、小が2つ、洗面所は中に2カ所、外に1カ所あり、不便さは感じません。ただ、生活部屋を含めて男女の区分けがないため、女性は参加しづらいと思います。なお、BC内には鏡也没有。コインランドリーはヨークベニマルの近辺に2軒あります。おそらく次回以降も中日の午後は被災地視察の後、早めにBCに戻るはずなので、洗濯の時間は確保できると思います。夕食の場所は先日「居酒屋が駅前に2軒」と報告しましたが、駅周辺でもう何軒か赤ちょうちんを発見しましたので、この点も困ることはないと思います。それでは、行ってきます。



《任務終了》 7月29日



今日の作業内容は民家の納屋からの泥出しでした。場所は東松島市で、昨日のお宅のすぐ近くでした。作業中、米虫であるコクゾウムシやノシメマダラメイガの幼虫（関心がある方は検索を）が大量に出てきてギョッとしました。蛇もいました。さて、この間、ブログを拝借し、活動状況等をお伝えしてきましたが、【労済労連の仲間編】は今回で終了となります。全労金書記局とコメントいただいた皆様に感謝申し上げます。復興・再生への道のりはまだまだ遠いです。引き続き連合救援ボランティアには大きな期待が寄せられています。全労金の第17陣参加者に心からのエールを送り、最後の報告とさせていただきます。

以 上